

調布市地域福祉計画 概要版

平成30（2018）年度 ～ 平成35（2023）年度

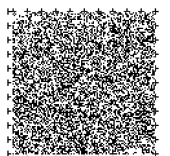


平成30年3月

調布市

この計画書概要版の各ページには、「音声コード」(Uni-Voice)を付しています。

「音声コード」とは、1.8センチメートル角のコードを専用の読取機やスマートフォン用アプリが音声に変換し、文章内容を読み上げるものです。



◎ 支え合う地域づくりのために あなたもはじめてみませんか

ポイント1 あいさつから 始めよう
—地域の人とつながるために—

家を出て、人に会ったらあいさつをしましょう。
思い出してください。

朝のまちでは、子どもたちが大きな声で、声をかけ合っています。



大人になると、忙しさや気恥ずかしさから、あいさつがおろそかになります。でも、あいさつするといいことがあります。はじめは、あいさつしても相手が返してくれないかもしれません。でも、諦めず2回3回と続けることで、返ってくるはずです。しかも、笑顔とともに。そして、相手からの印象もよくなります。続けることで、会話が始まります。

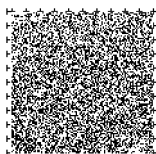
「こんにちは。」から

「こんにちは。今日はいい天気ですね。」



そして、何よりも思い立ったら、
すぐに始められます。

さあ、皆さんもはじめてみませんか。
会話が始めるとつながりが広がります。



ポイント2 見守ってみよう
—おせっかいな気持ちで—



地域とかかわりを持つことが、ちょっと苦手な人がいます。でも、困りごとを抱えている人には、声かけ、見守りが必要です。

「落ち葉がたくさんあるけれど、ちょっと気になるなあ」
「配達されたお弁当、まだそのままだけれど大丈夫かしら」



気になることがありますよね。
支える人も、1歩踏み出す勇気が必要ですが、思い切って声をかけてみませんか。そうすることで、これまで、地域とつながる機会のない方も、きっかけになります。

ただし、焦らないことです。

将来、自分が同じようになるかもしれない・・・
そうです。自分のこととして考えてみてください。
お互いさまの気持ちが大切です。

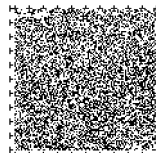
ポイント3 ひとりでできなくても
—地域のみんなどと一緒に—

自分の関心があることを、できる範囲で見つけてみてください。

ひとりでできなくても、皆さんの周りにはたくさんの活動があります。困った時には、地域福祉コーディネーター等の福祉の専門職や地域で活動されている方に声をかけてみましょう。

小さなことに目を向ける、気づく、そして行動することから始まります。

そして、地域のみんなどと一緒に情報共有して地域の課題を把握し、解決に向け、できることを見つけ、少しずつ取り組んでみてください。



1 地域福祉について

● 地域福祉の必要性について

調布市では、これまで市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、個別の生活課題やニーズに即したサービス、並びに支援の拡充に努めるとともに、地域福祉の推進や、福祉分野ごとの専門的な相談体制の充実を図って参りました。

しかし近年、少子高齢化や核家族化の進行、ライフスタイルや価値観の多様化、また、隣近所のつながりの希薄化などの社会状況の変容にともない、市民生活の場である地域の状況も大きく変化し、人々が日常生活の中で抱える課題が、複合的なものへと変質しています。それにより、従来の縦割りによる制度では十分に対応し切れない、制度の狭間となる問題や潜在的な生活困窮、また、子どもの貧困などの社会問題が顕在化しています。

こうした状況から、市が目指す「だれもが安心して住み続けられるまち」を実現するために、既存の福祉分野ごとの公的なサービスや支援に加え、市民の生活の基盤となる「地域」において、支え手・受け手という関係を超えた、市民、ボランティア、NPO、社会福祉法人をはじめとする福祉サービス事業者、社会福祉協議会、市など、多様な主体が、課題を自分事として受け止め、地域づくりに参画することが、強く求められています。

あわせて、その取組は、「自助、互助、共助、公助」を重層的に組み合わせて推進することが重要です。

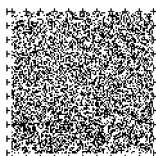
★ 地域における課題解決への必要事項

- 身近な場所で相談できるところが必要です。
- 地域での助け合いや支え合いが必要です。
- 誰でも参加できる（多世代交流）地域活動の仕組みが必要です。
- 自分の居場所が地域の中にあることが大切です。
- 情報を共有して、困っている人を支援する仕組みが必要です。

■ 地域福祉の領域イメージ (社会福祉法第107条より)



- ・福祉サービスの適切利用の推進
- ・社会福祉事業の健全な発達
- ・地域福祉活動への住民参加の促進



2 調布市の福祉の共通事項

● 将来像

みんなが 自分らしく 安心して
つながりをもって 暮らし続けられるまち
— 支え合い 認め合い ともに暮らす —

● 基本理念

（理念1）一人ひとりが生涯にわたって、その人らしく生活していける地域社会

市民一人ひとりが住み慣れた地域において、生涯にわたって安心していきいきと自分らしい生き方ができ、必要な支援を受けながら、自立して暮らしていける地域社会を目指します。そのために、必要なサービスや支援が行き届く体制づくりと、社会参加を促す取組を進めます。

（理念2）誰もが社会の一員として互いに認め合い、尊重し合う地域社会

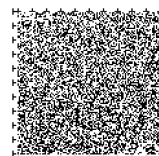
誰もが、孤立することなく、互いを尊重し合い、多様性を認め合いながらともに生きる地域社会を目指します。そのために、年齢、障害の有無、性別、人種その他の違いにかかわらず、市民一人ひとりが地域の一員としてつながりをもって暮らせる地域づくりを進めます。

（理念3）住民全体で支え合う地域社会

市民一人ひとりが当事者として、地域や生活の課題などについてともに考え、サービスの受け手にとどまるのではなく、できる力を活用して、地域の担い手となり、支援を必要とする人を支え合う地域社会を目指します。そのための体制づくりについて行政、市民、ボランティア、地域組織、事業者など多様な主体と協働しながら取り組みます。

（理念4）様々な課題を受け止め、包括的に支援する体制

個人や家族、地域が抱える問題は多様な側面を持っています。これらを解決していくためには、多くの担い手がそれぞれの強み専門性をいかした、より一体的、包括的な支援が必要です。そのため福祉のみならず他分野とも連携し、個人や地域の課題に応じた切れ目のない支援を提供できる体制構築を目指します。




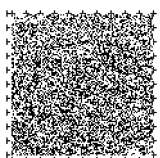
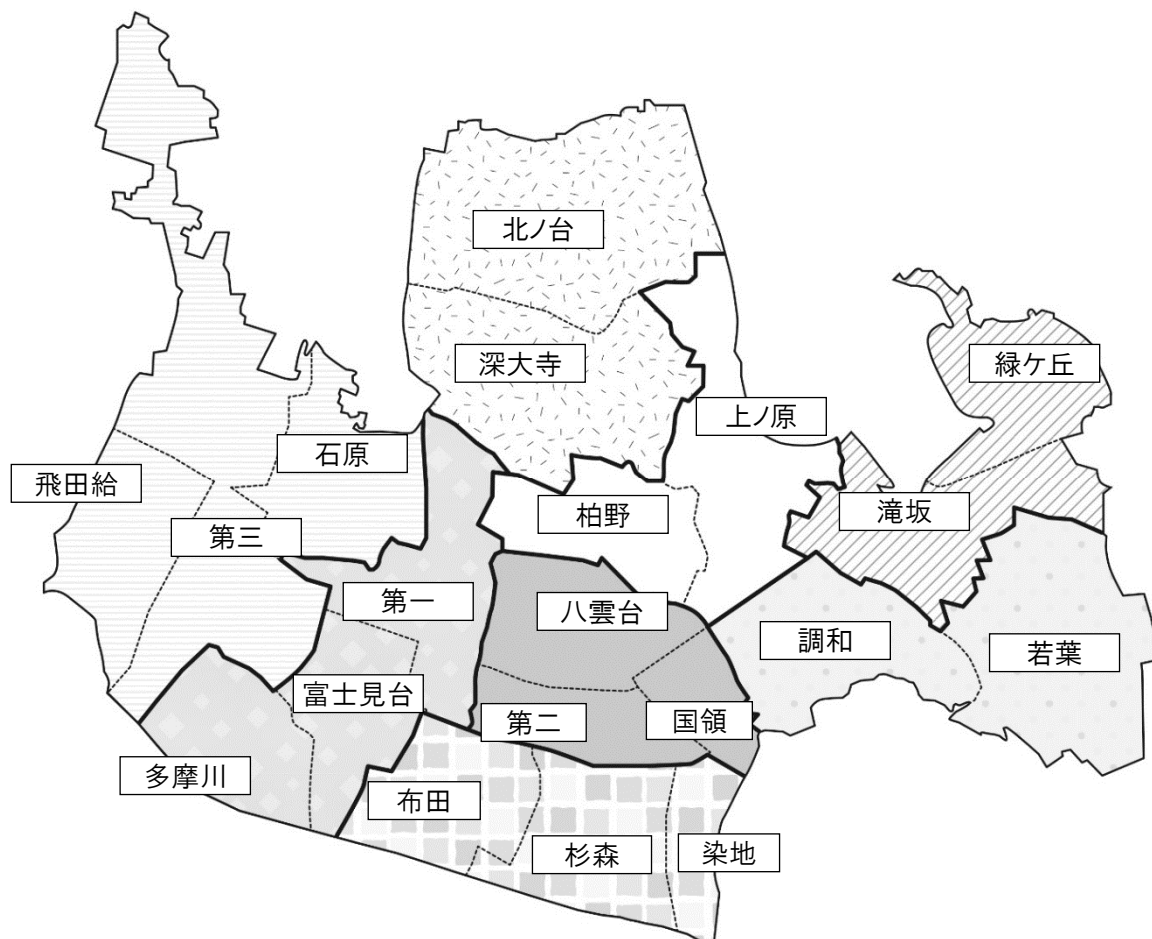
● 福祉圏域

福祉圏域は、福祉、教育、地域コミュニティ等の共通基盤である小学校区を基礎とし、それらの複数で構成される8つの圏域（中学校区規模）です。

多問題を有する個人や家庭が抱える福祉課題に対応するため、専門機関等の担当エリアの整合や地域での顔の見える関係づくりを行うことで、より重層的な支援による解決を図る必要性があること等を踏まえ、地域福祉計画、高齢者総合計画及び障害者総合計画の福祉3計画の圏域の整理・統一化を図り、共通の福祉圏域とします。

■福祉圏域の地域区分

下記  内の記載は 小学校区の名称です。



3 計画の策定に当たって

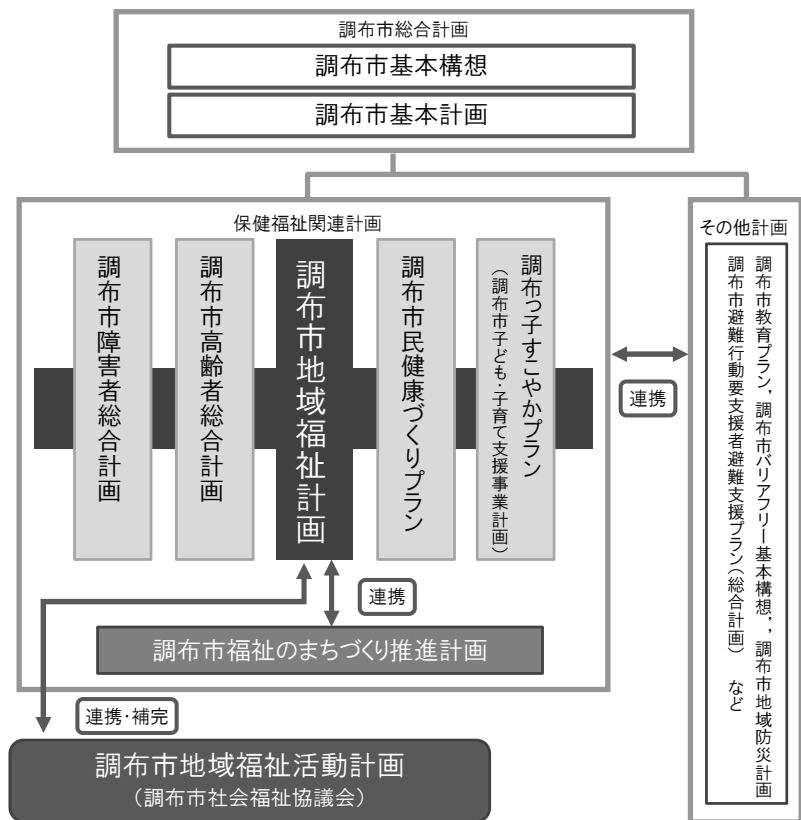
● 計画の位置付け

この計画は、社会福祉法第 107 条に規定する市町村地域福祉計画として位置付けられます。

また、「調布市総合計画」を最上位の計画とし、保健福祉に関する他の分野別計画（「調布市高齢者総合計画」、「調布市障害者総合計画」、「調布市民健康づくりプラン」、「調布市子ども・子育て支援事業計画」）を地域という視点で横断的につなげるとともに、「調布市福祉のまちづくり推進計画」とも連携を図り、地域福祉の理念や仕組みをつくるものです。

さらに、調布市社会福祉協議会が策定する「調布市地域福祉活動計画」と地域福祉の推進という理念を共有するとともに、様々な施策や事業を進めるうえで、互いに連携・補完を図ることとします。

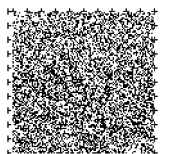
なお、この計画は対象者を限定するものではなく、調布市に暮らす全ての市民を対象とした地域の福祉活動を進める計画です。



● 計画の期間

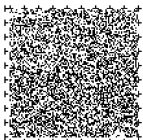
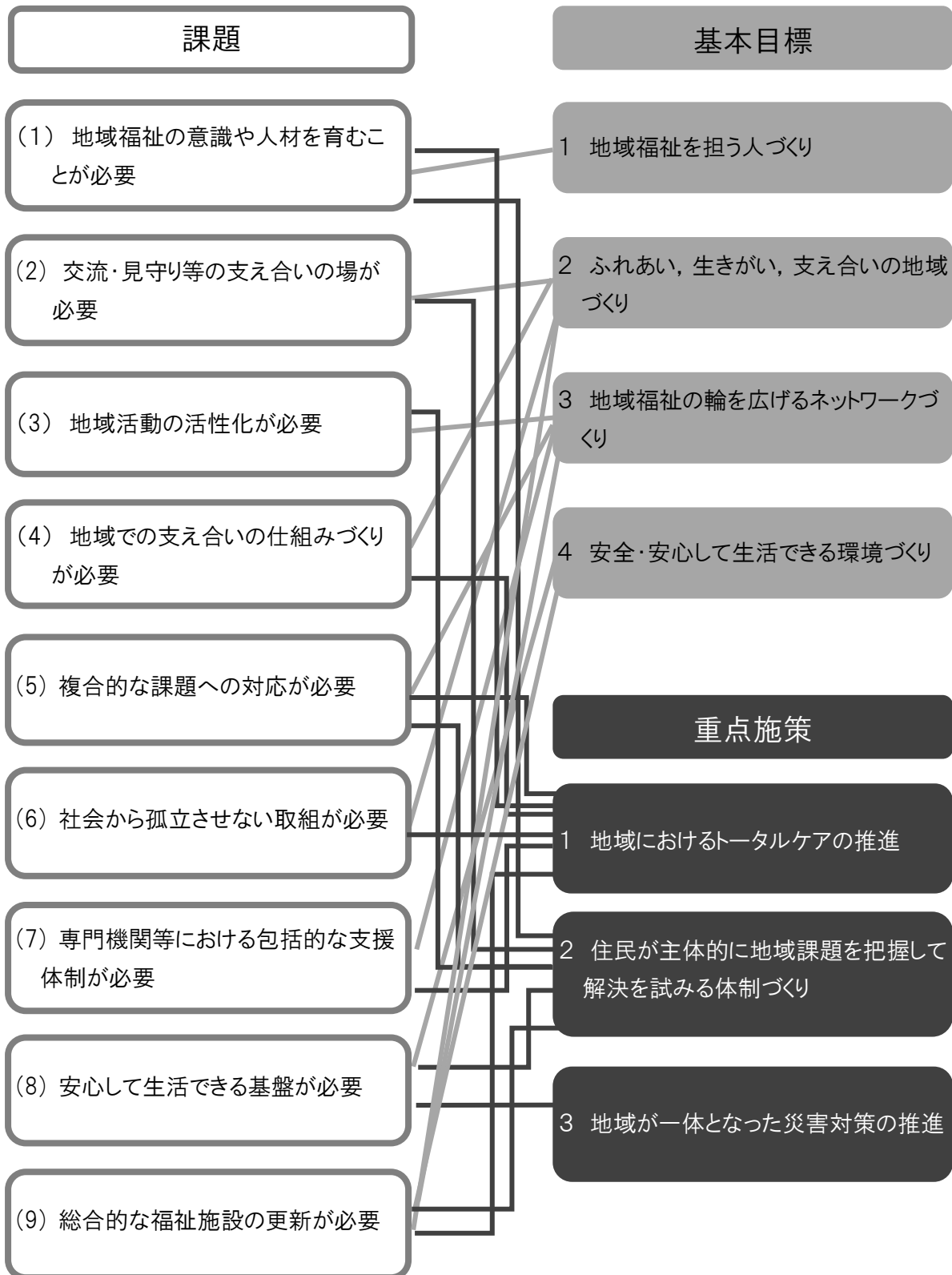
この計画は、平成 30 年度から平成 35 年度までの 6 箇年計画とします。

また、変化する社会情勢や、関連する他の個別計画との整合を図るため、必要に応じて見直しを行うものとします。



4 計画の基本方向

■体系図

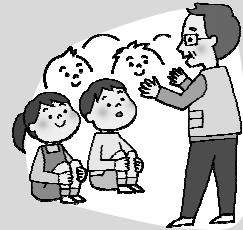


● 基本目標

基本目標1 地域福祉を担う人づくり

地域での交流を通じた心のふれあいが少なくなっている中、福祉意識が育ちにくく、隣近所や周囲の生活課題に気づく機会も少なくなっており、認め合い、支え合う関係づくりが難しくなっています。また、支援を必要とする人が増加する一方、地域で活動する担い手や福祉人材が不足している現状もあります。

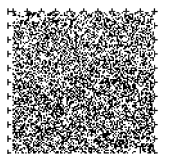
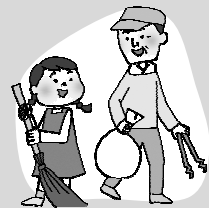
そのため、学校教育や生涯学習など多様な分野と連携した福祉教育を推進するとともに、地域で活躍するリーダー・福祉人材の養成や団体活動への支援によって、市民の自発的・主体的な活動の活性化を促進します。



基本目標2 ふれあい、生きがい、支え合いの地域づくり

世帯構成や生活様式等が変化する中で、若い年代を中心に近所づきあいをあまりしていない人が多いなど、住民同士のつながりが希薄化してきている中、地域での孤立等が社会問題となっています。一方、調布市民福祉ニーズ調査のアンケート調査では地域でのつながりが必要であると感じている人も多く、地域の中で社会的な孤立を防ぐ仕組みが重要となっています。

そのため、自治会活動や地区協議会などの小地域活動の活性化や地域の交流機会、交流拠点等を充実するとともに、地域ぐるみで日常的な見守りを行う体制を充実します。



基本目標3 地域福祉の輪を広げるネットワークづくり

地域の中の課題は複合化しており、制度の狭間で苦しんでいる方や支援に結びつきにくい人がいることも明らかになっています。また、地域の様々な課題を共有し、連携することが必要な場面も多くなっている中、個人や地域の課題に応じた切れ目のない支援を提供できる体制整備が必要となっています。

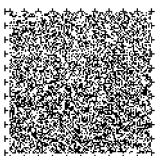
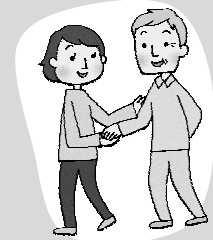
そのため、市民に対する情報提供体制や権利擁護体制を充実するとともに、地域で活動する様々な団体や関係機関と連携しながら、地域福祉コーディネーターを中心としたネットワークを充実します。



基本目標4 安全・安心して生活できる環境づくり

地域の中で不安を感じていることとして災害時の対応は上位に挙がっており、犯罪や災害から市民の生活を守るため、地域や関係機関・団体、行政等が連携した活動が重要となっています。また、高齢化が進む中、認知症などの支援や介護を必要とする人が増えており、安心して生活できる体制の整備が必要です。

そのため、地域の中で生活支援のサービスを行う体制の整備や、地域における防犯・防災の取組を充実します。また、あらゆる課題に柔軟に対応するため、保健・医療・福祉が一体となり、協働してサービスを提供できる仕組みづくりを推進します。



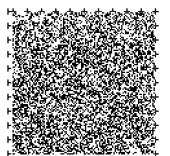
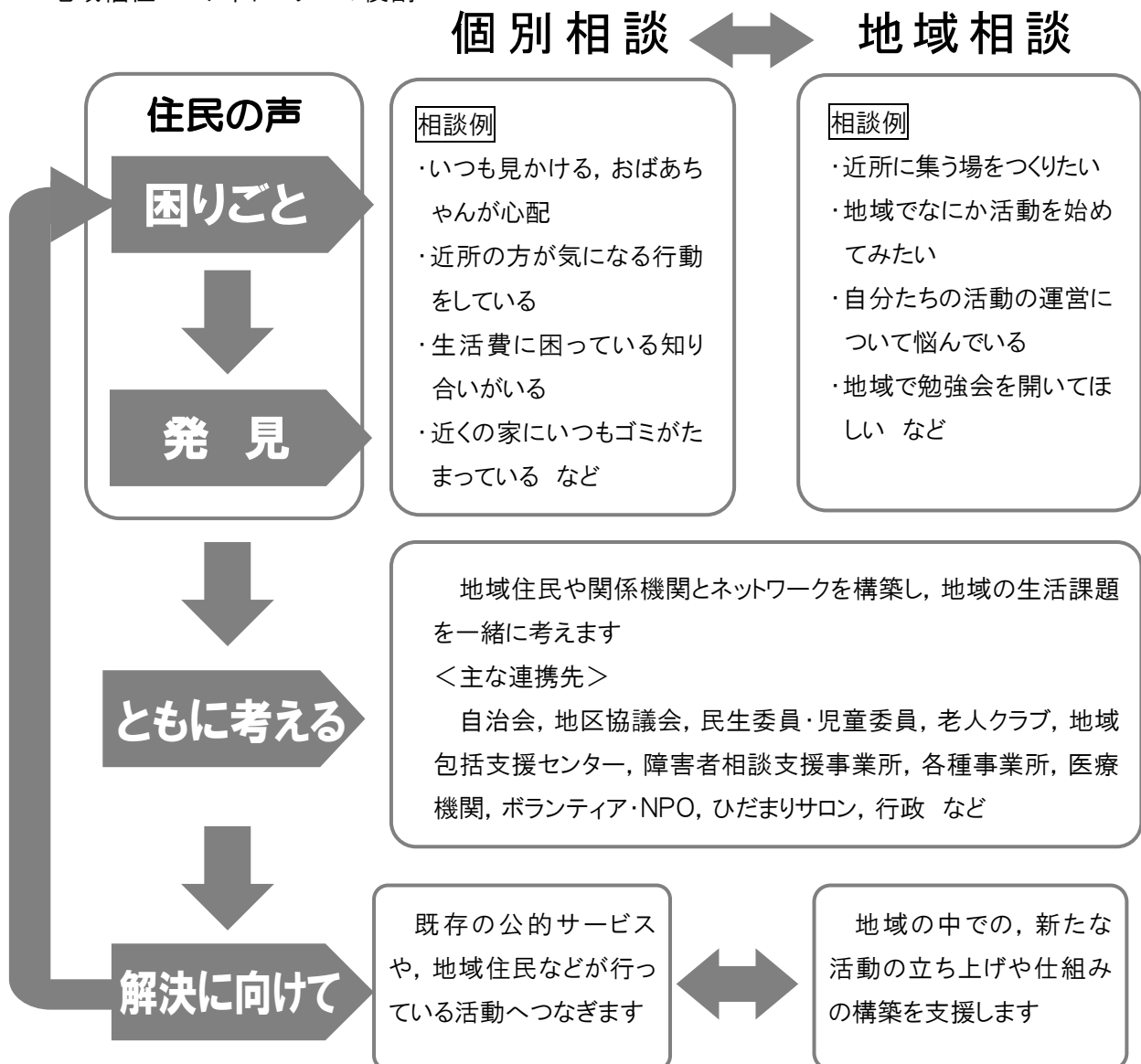
● 重点施策の推進

重点施策1 地域におけるトータルケアの推進

地域で複合的な課題を抱える人や、制度の狭間に落ち込み、社会的孤立に陥っている人が増えており、それらの困っている人を発見し、支援につなげていく体制が一層必要となっています。

そのため、地域における「自助、互助、共助、公助」の役割分担を踏まえながら、地域福祉コーディネーターを中心として、有機的に連動して支援が提供される調布におけるトータルケアを一層充実していきます。

■地域福祉コーディネーターの役割



重点施策2 住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり

地域で生活する人の課題の複合化・多様化が進む中、身近な地域において住民自身が地域の課題を自分事として捉え、自分たちで解決したいという主体的な気持ちで課題解決に取り組むことが重要となっています。

そのため、住民主体の交流の場や地域活動・ボランティア活動の活性化支援を行うとともに、地域福祉コーディネーターを中心とした地域で課題を解決する仕組みを一層充実します。

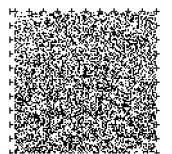
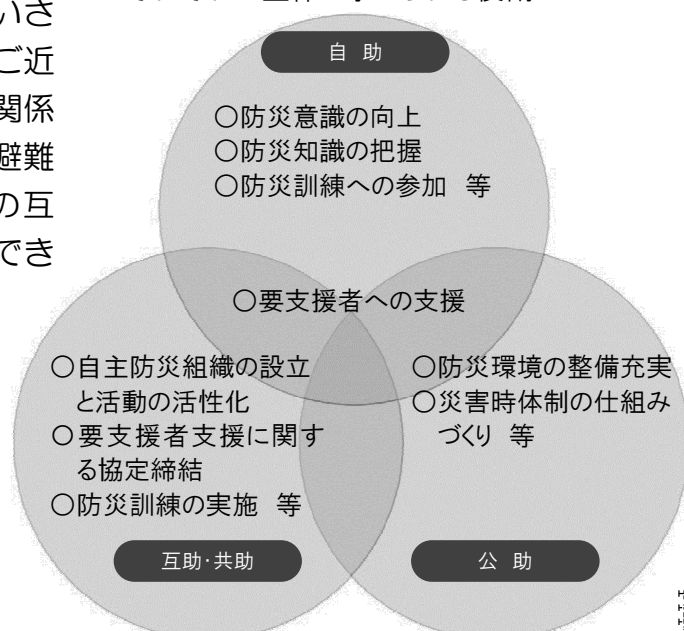
重点施策3 地域が一体となった災害対策の推進

大規模地震や水害などの災害発生直後は、安否確認や被災者の救出など、地域の互助・共助活動が果たす役割が極めて重要となっています。特に、自力では避難することのできない高齢者や障害者などの要支援者への支援体制を充実していくことが必要となります。

そのため、自分の身を自分の努力で守る「自助」、地域や近隣の人が互いに協力しあう「互助・共助」の意識、災害時の被害を最小に抑えるための対策・仕組みを構築する「公助」の取組をそれぞれ充実するとともに、「自助」「互助」「共助」「公助」が連携しあいながら地域が一体となった災害対策を進めることが必要です。

また、地域内で日常的にあいさつや声かけを実施するなど、ご近所でのつながりや顔の見える関係づくりを大切にすることは、避難行動や避難所生活等災害時の互助・共助の活動が円滑に実施できることにつながります。

■それぞれの主体に求められる役割



5 地域の状況（8つの福祉圏域）

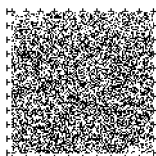
計画の策定に当たって、下記の会議と説明会において、8つの福祉圏域別の状況についてご意見をいただきました。

●調布市地域福祉推進会議

調布市地域福祉計画に基づく地域福祉を、市民参加により推進するために設置された調布市地域福祉推進会議において、計画の検討を行いました。

●説明会の開催

計画案について、市民から意見等を幅広く募集するため、福祉3計画合同説明会及び福祉圏域の8地域で説明会を開催し、意見の把握に努めました。



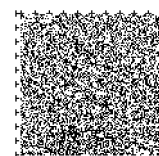
(1) 緑ヶ丘・滝坂小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のつながりが強く、近所つきあいなどを行っている割合が高い。 (みんなが安心して住み続けられるよう、住民の助け合い・見守り等の仕組みをつくる。) ○ 駅周辺は、商店や医療機関が多いので、見守りなどに活用できるよう働きかける。 ○ 地域活動が活発で、イベントも盛んである。 (さくらまつり、ふれ愛のつどい、SLトレインフェスタ、夏休みこども体験、盆踊り、ハロウィンなど) ○ 駅周辺は、お店が増え、商店街が活性化しており、利便性が良く住みやすい。 ○ せんがわ劇場を中心に芸術の街として、こじやれた雰囲気があるため、その良さをもっと生かしていければよい。 ○ 仙川駅からの教育機関があるため、若者が地域に多い。大学等との連携を強化し、若年層の巻き込みを図っていく。 ○ 誰もが参加できるスポーツ「ボッチャ」を通して多世代、様々な人とコミュニケーションを取る。 ○ 学校や施設が密集している地域では、子どもや高齢者を対象とする行事の際に、声かけや人集めがしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 駅周辺から遠い地域では、何かイベント等があっても交通手段が不便で出ていけない人もいるので、参加しやすい工夫が必要である。 ○ 団地周辺は、特に高齢化やひとり暮らし高齢者の増加、建替え問題などで不安が強い。まずはあいさつからはじめ、あきらめずに良い意味で“お節介”な人を増やしていくとよい。 ○ 団地の建替えに対する地域における相談の仕組みが必要。 ○ 高齢者などこれまで地域とかかわりがなかった人を地域活動に引き込むために、退職者を対象とした学習会などきっかけがあるとよい。 (地域福祉センターのボランティアコーナーとの協力) ○ 集まれる場所が少ない。大学生と、空き家や空き店舗なども使った居場所をつくれるとよい。(情報収集の支援が必要) ○ マンションに住む人々に対して、自治会づくりを働きかけ、助け合いや見守りについて取り組んでもらう。

今後の方向性

高齢化が進み高齢者のひとり暮らしが増えている中、大学があることや芸術の街といった利点を生かし、大学生などの若い世代を巻き込みながらイベントの実施や居場所づくりなどに取り組んでいく。また、退職者向けの学習会などを実施し、元気な高齢者が地域活動に取り組めるきっかけをつくっていく。



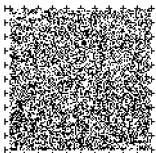
(2) 若葉・調和小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 他地域に比べて、自治会の加入者が多く、自治会や地区協議会の活動が活発なところもある。 ○ 高齢者向けのお祭のようなイベントがあるほか、ゴミ出しの状況などから、ひとり暮らし高齢者の方の安否確認ができています。 ○ 小中学校との連携や交流が良く図られていて、特に PTA や親父クラブの活動が活発。先生方と地域のつながりも親密である。 ○ 何かあった時は、お互い様と助け合える地域のつながりがある。 ○ ボランティア活動への興味がある方が多く、小地域のボランティア情報をうまく共有して連携する。 ○ 地域のつながりを大切にして、すでにつながっているグループをネットワーク化して、活動を活性化する。 ○ 入間町地域福祉センターを利用した地域イベントでは、年間を通して、様々な年代の方が楽しめるような取組をして、世代交流を図っている。(はつらつ地域まつり、夏休み工作教室、新春お茶会、三世代交流輪投げ大会など) ○ 子どもたちが参加しやすくするために、小学校を会場とするイベントを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 駅から離れた地域で、お店が減ってしまい、病院なども遠く、生活が不便(住民主体の交通システムの検討) ○ 自治会活動は、各自治会によって偏りがあり、自治会のイベントを行っても高齢者が多く、若い世代の参加を増やすことが難しい。自治会の中で、イベントセクションやプロジェクトチームをつくるのも一つの手である。 ○ お子さんがない世代は特に自治会に誘っても断られるなどつながりを持つきっかけが難しいため、何か仕掛けが必要である。 ○ 国分寺崖線があり、坂が多い地域では、災害時の避難が難しい。 ○ 地域に福祉施設は少ないが、情報連携して地域づくりを進められたらよい。

今後の方向性

地域のつながりが強く、自治会や地区協議会の活動が活発なところや学校とのつながりが強いところをモデルとして、それらの活動が弱いところでも広げていく。特に、自治会の中でイベントやサロンなどのつながりづくりを実施するほか、イベントを企画するセクションやプロジェクトチームをつくることも検討していく。



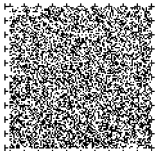
(3) 上ノ原・柏野小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境がよいこともあり、転入者含め若い世代が多く、見守り等地域づくりが盛ん。昔から住む人との交流がもっと増えるようになってよい。 ○ 古くからの地縁の自治会を中心とした活動や地区協議会の活動が、小地域でうまく機能し、イベントなどが盛んである。 ○ 小学校を中心とした拠点づくりは、活動しやすい。 ○ 地域資源がとても豊富で、商店街、子どもや介護福祉施設など、いろいろな施設があり、地域の活動やイベントと一緒にやってみないかと声かけをすることで、誰もが参加できる仕組みができています。 ○ 地域の若い人の力をうまく活用して、みんなが楽しめるイベントの企画などに協力してもらおう(学校ごとにあるおやじの会や地域の青年団などにリーダーとなってもらう)。 ○ 単に、地域にチラシを配るだけではなく、市報やフェイスブックなどを利用して情報発信の仕方を考えていく。 ○ 地域内私立学校の協力連携もあり、イベント開催の会場提供があるのは、とてもよい。 ○ 菊野台地域福祉センターでの毎年行われる地域のつどいには、多世代の参加がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 若い世代の中でも、マンションや単身世帯などでは、特に交流が少なくなりがちである。若い人の活力をうまく引き出せる工夫が必要。 ○ 気軽に参加できるひだまりサロンが増えるとよい。 ○ 自治会やボランティア等の役員をする人がいつも同じ人で、担い手が少ない。子ども会も、子どもの数は増えてはいるが、塾や習い事で子ども会への加入者が少なく、活動が停滞している。子どもたちが、参加しやすい環境づくりが必要です。 ○ ひだまりサロンなど、みんなが集まって語らう場が少ないため、空き家活用など含め交流の機会や場を創出していけるとよい。 ○ 商店街の空き店舗を活用して、商店街と地域の人でコラボすることで、活性化にもつながるのではないかと。また、様々な施設の情報を収集して活用できるとよい。 ○ 地域住民の新旧の交流を進めて、地域のつながりをつくる必要がある。 ○ 地域の施設と地域住民が、協力できる関係の構築が必要である。

今後の方向性

若い世代が多いという特性を生かし、誰もが参加しやすいイベント等新旧住民との交流の場や機会を増やしていくとともに、今後着実に世代交代をしていけるように自治会やボランティア等の担い手を育成していく。特に、若い世代も情報を得やすい方法について検討し、自治会や地域活動について伝えていくほか、地区協議会や自治会などの地域組織が協働で進めていく。



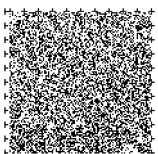
(4) 北ノ台・深大寺小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然が豊かで緑が多く、神代植物園や深大寺等の観光地がありにぎわいがある。 ○ 地域の資源として、JAXA(調布航空宇宙センター)やクリーンプラザふじみがあり、一般公開されるなど地域に開かれた施設がある。 ○ 自治会活動や地域主体の活動が盛んで、交流イベント等が多く行われているが、より多くのイベント等を行って、転入してこられる若い世代や地域になじみのない方へのきっかけづくりを行う。 ○ 地区協議会が中心になり、周りの福祉施設と連携しいろいろなイベントも開催していたり、子どもの見守りで自治会と子供会の連携がとれていたりするなど、横の連携も取れている。 ○ 新しい住宅の建設が多く、古くからの住民と新たな住民がつながれるような、地域の取組が必要(ふれあい朝市や車の送迎支援など)。また、子育て世代にもっと参加してもらえような取組を検討していく。 ○ 地域にある福祉施設から、地域の方に理解してもらおう取組の推進を図るとともに、地域の資源を洗い出して、施設、空き家や車などを活用していく。 ○ 地域住民と地域福祉コーディネーターの連携により地域の活動が、一層活性化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の方が多い中、交通の利便性が悪く、病院や市役所へ行くことが不便 ○ 高齢者の孤立が課題だが、それを防ぐにしても、個人情報の壁がある。今後は、地域でのつながりをつくって、個人情報が取得できればいい。 ○ 転入者などでは子供会や自治会加入が少なく感じるため、多世代が交流できる場所をつくることができるとよい。 ○ 空き家が非常に多く、空き家を活用したサロンの検討や、空き家の木の問題は地域に多くある植木屋のOBに活躍していただく方法はないだろうか。 ○ 市の北部地域は、地域の医療機関が少ない。

今後の方向性

地域が主体の活動が盛んであるという素地を生かし、転入してこられる若い世代や地域になじみのない方に対しても参加してもらえような工夫をしていく。また、高齢者の孤立問題についても、地域のつながりを強化し支え合えるような関係をつくる。空き家に関しては、サロンなどに活用できないかどうか検討していく。



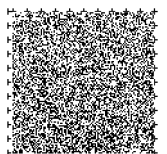
(5) 第二・八雲台・国領小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな商店や商業施設が多く、大きな病院が近いため、立地面で生活に便利である。 ○ 見守りやお祭り等の地域活動、(防災)訓練が多い。特に団地などでは、月1回の掃除を通して高齢者の安否確認を行っているところもある。 ○ 若い世代の転入も増えており、地域に暮らす人の世代バランスはよい。 ○ 自治会や集合住宅などで防災訓練が盛んで、災害の備えに努め、対応ができていく地域がある。 ○ 地区協議会や自治会などで人のつながりやネットワークが強い地域である。 ○ ひだまりサロンの周知を行い、参加を促す取組を進める。 ○ 地域資源である包括支援センターなど関係機関と連携して見守りを強化する。 ○ 国領駅前の市民活動支援センターでは、ボランティア活動の支援を、子ども家庭支援センターでは子育て支援をと、利便性の良い環境がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 団地を中心として高齢化率が高く、防災訓練や地域のイベントに参加しにくい現状がある。 ○ マンションや戸建ての住宅が増えてきていることによって若い世代も増え、つながりがない。若い世代への声かけなど顔の見える関係から地域のことへつなげていく必要がある。 ○ 自分からあいさつできるよう心がける。 ○ 子どもが参加しやすい状況をつくり出すということもやっていく必要がある。また、若い人と高齢の方の交わる機会・マッチングなどがあるとよい。 ○ 地域のイベントの情報を単身世帯は、自治会に加入していないとなかなか得ることが難しいので、情報の周知、共有化に努める。

今後の方向性

生活するのが便利な立地であり若い世代の転入が増えており、日頃のあいさつ・声かけや子どもが参加しやすい状況をつくり、交流を増やしていく。また、自治会に加入していない世帯へも情報を届けられるような方法の検討も必要。一方、団地を中心として高齢化率が高いため、孤立しないような見守りや、必要に応じて関係機関へつなげていく。



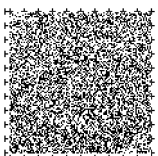
(6) 染地・杉森・布田小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども会，自治会等自主的な住民活動が盛んで，子どもから大人まで世代間交流がある。(バーベキューやもちつきなどの行事を行う。) ○ 高齢化が進んでいるが，昔から長く住んでいる住民同士のつながりがあり，よくあいさつし合う。(大人から子どもへ，地域の方から声をかける。) ○ 学校単位の地域活動が活発で，祭りや盆踊りもとても盛んであり，そういった活動を通して世代交代も進んでいて良い。 ○ 多摩川が近いので，地域の方は散歩がしやすく健康にもよく，犬の散歩もしやすい。 ○ 地域福祉活動に理解のある方が多い。 ○ ひだまりサロンが 21 箇所と，他の地区に比べて多く，とても身近である。利用できるように働きかけたり，行けない人はともにいくなどできたらよい。 ○ 染地地域福祉センターを利用したボランティアまつりは 20 年も続いており，地域住民と包括支援センターや福祉施設などの専門機関などの協働により開催，地域の方がたくさん参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近くにスーパーなどの商業施設がなく，多摩川住宅にはエレベーターもないため，生活に不便。安価な生活支援をやっているところもある。(生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」) ○ 新しいマンションが増えているけれども，オートロックのため誰が住んでいるのか顔が見えない。特に，子どもがいない家庭はつながりができにくい。 ○ 自治会の高齢化が進んでおり，祭りや盆踊りを通して若い世代にも参加してもらえるよう工夫する必要がある。 ○ 多摩川住宅など地域の集合住宅等では，ひとり暮らしで孤立している方が増えているため，見守り対策を進める。 ○ 自治会加入のメリットを伝え，近隣のつながりの必要性を伝える。(災害などの共通事項でつながりを検討)

今後の方向性

高齢化率が最も高い地域であるものの，長く住んでいる住民同士のつながりがあるという強みを生かし，多くあるひだまりサロンでの交流を今後も取り組むとともに，祭りや盆踊りなどのイベントを通して，若い世代も一層巻き込んでいく。また，特に高齢化が進む団地などでは，市民同士の生活支援等も検討していく。



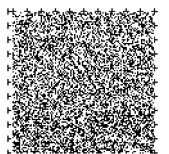
(7) 第一・富士見台・多摩川小学校地域

地域の強み・弱み，地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・自分や地域でできること	地域の弱み・自分や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 調布駅が近く，商業施設が多いなど日常生活の利便性がよく，自分がやりたいことが実現しやすい地域である。 ○ 社会資源や医療機関など豊富で，生活には便利である。 ○ よくあいさつを交わしている。 ○ 地区協議会活動が広がりつつあり，学校間の地域協力があるほか，若い人たちが役員となって防犯活動に取り組んでいる。 ○ 祭りや文化活動が豊かで，ポスターなどでPRし，地域を巻き込んでいる。(若い世代が多いので，参加しやすくする工夫が必要) ○ ボランティア活動の意欲に，活動意義を可視化できる工夫(地域通貨など)ができると活性化するのではないかと。また，生活スタイルが多様なので，活動日や時間が参加しやすいよう工夫し，活動内容によってターゲットを絞る。 ○ 地域の拠点として，地域福祉センターや総合福祉センターなどの地域資源を生かした活動をもっと広げる。若い世代が，気軽に参加できるよう工夫していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アパートの単身者など誰が住んでいるかわからないことがあり，地域のつながりが弱い。顔の見える関係を築く工夫が必要である。 ○ 自治会加入が少ないため，若い世代が興味のあるイベントや防災活動等参加しやすい工夫をする。また，サロンを増やしていけば少しずつつながりが増えるのでは。 ○ 若い世代を巻き込むために，PRをする際SNSなどインターネットを利用することも一つの手だてである。 ○ ひとり暮らしの高齢者では電気の交換などちょっとしたことに困る人もいるので，地域で支え合う活動が必要である。 ○ 空き家が増えており，地域の中で情報共有しながら交流の場になるように整備していけるとよい。

今後の方向性

若い世代が多いという特性を生かし，若い世代が興味のあるイベントや防災活動等参加しやすい内容とするとともに，活動日時を土日にしたたり，PRにインターネットを活用したりするなど，参加しやすい工夫をしていく。また，増えている空き家についても，交流の場として活用できるように検討していく。



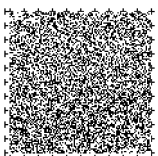
(8) 第三・石原・飛田給小学校地域

地域の強み・弱み、地域特性への取組(地域住民からのご意見)

地域の強み・個人や地域でできること	地域の弱み・個人や地域でできること
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中央自動車道(調布IC)が近くにあり、交通の便がよく、入院できる病院もあり便利である。 ○ スポーツができる施設等の公共施設や大学がある地域であり、イベントの開催などを一緒にできるとよい。(大学生の活用) ○ 福祉施設が多く、日頃の集まる場としてや、災害時の備蓄など、活用させてもらえるとよい。地域の福祉施設をもっと知ってもらう必要がある。 ○ 自治会が多く、地域差はあるが自治会によっては昔からのイベントを続けられていて、住民の交流があるが、若い世代へ加入を促す。 ○ 防災訓練等を、自治会やマンション管理組合で行い、地域のつながりをつくるというのではないか。 ○ 地区協議会の活動も活発に行われている地域である。若い世代や高齢者の活躍の場をみんなで考えられるとよい。 ○ 地域福祉センターでは、それぞれの小地域で、地域住民のつどいが行われ、多世代の参加があり、交流が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 駅南側で一部交通の便が悪いところがあり、高齢者が増えている中、移動に不便がある。 ○ マンションが増えたことに伴い、従来からいる住民と新しく入ってきた方々との交流がなく、自治会への加入率が低い。お子さんを通して親御さんに話をさせていただくとか、子どもが参加できるイベントを計画することで、加入につなげられるのではないか。 ○ 強みである福祉施設に行く機会が無い人が多いため、一緒にイベントを行い、施設の内容を伝えられると良い。 ○ 味の素スタジアムでのイベントは多いが、その反面、地域住民主体のお祭りなどのイベントが、他の地域に比べて少ない。みんなで住民参加型の集いを行えるとよい。(大学生や地域の施設などと連携)

今後の方向性

自治会が多い特性や地区協議会活動を生かし、子どもが参加できるイベントの開催や防災訓練などを通して若い世代の加入も促し、交流を深めていく。また、福祉施設、スポーツ施設などが多いことから、イベントの開催などで地域への理解を深めるとともに、日頃の集まる場や災害時の備えなど地域の交流を通じて、協働の取り組みを行っていく。



6 計画の推進に向けて

● 協働による計画の推進

地域福祉の主役は、地域で生活している市民一人ひとりです。自分たちの住む地域を支え合い、助け合いのできる理想の地域に近づけていくためには、市の取組に加え、市民との協働が不可欠となります。

また、地域の中には、それぞれの地域に応じた多様な福祉ニーズがあることが考えられます。それらに対応していくためには、その地域で活動するボランティア、NPO、社会福祉法人、社会福祉協議会などの取組も必要となることから、これらの地域資源も重要な地域福祉の担い手となります。

この計画の推進に当たっては、地域福祉を担う主体それぞれが、相互に連携を図り、役割を果たしながら計画を進めていくことが大切です。



● 計画の周知・普及

地域福祉を推進する上で、計画の目指す地域福祉の方向性や取組について、市民、ボランティア、NPO、社会福祉法人をはじめとする福祉サービス事業者、社会福祉協議会、市などの計画に関係する全ての人々が共通の理解を持つことが必要です。

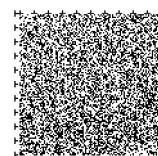
そのため、市報ちょうふや市のホームページなどを通じて、計画を広く市民に周知し、普及に努めます。

● 計画の進行管理・評価

本計画の推進のため、PDCAサイクル（P（計画）、D（実施）、C（評価）、A（見直し））の考え方に基づき進行管理を実施し、計画全体の継続的な改善を図ります。

また、調布市地域福祉推進会議では、引き続き、計画の推進と進行管理など地域福祉の推進について必要な事項の検討を行って参ります。

福祉施策は、社会状況や福祉を取り巻く環境の変化などに応じて、適宜、変更していく必要があります。今後、新たな福祉圏域での取組やその圏域設定の検証を行う中で、必要に応じて、見直しを図ることも想定されます。そのためにも、将来的に予想される福祉課題への対応や、地域共生社会の実現に向けた取組等を行うため、次期福祉3計画の改定に併せて、圏域における福祉実践の取組や圏域設定のあり方について検証し、必要に応じて見直しを進めて参ります。



調布市地域福祉計画 概要版

平成30（2018）年度 ～ 平成35（2023）年度

発行日 平成30年3月

発行 調布市

編集 調布市 福祉健康部 福祉総務課

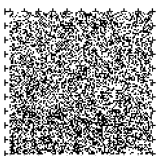
〒182-8511 東京都調布市小島町2-35-1

（電話）042-481-7101 （ファクス）042-481-7058

URL <http://www.city.chofu.tokyo.jp/>

刊行物番号

2017-244



表紙絵は、調布市民生児童委員協議会 濱野氏 作

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。